

第2期復興・創生期間までの復興施策の総括に関するワーキンググループ会合（第4回）
概要

1 日時

令和6年7月18日（木）16時00分～17時10分

2 場所

中央合同庁舎4号館共用1208特別会議室及びオンラインでの併催

3 出席構成員

今村座長、増田座長代理、浅野構成員、阿部構成員、白波瀬構成員及び戸塚構成員

○今村座長 お待たせいたしました。定刻より遅れましたけれども、ただ今から「第2期復興・創生期間までの復興施策の総括に関するワーキンググループ」第4回会合を開催したいと思います。構成員の先生方には、本当に御多忙の中、御出席いただきましてありがとうございます。

本日は、7名の構成員のうち5名出席をいただく予定でございまして、特にオンラインは白波瀬さん、戸塚さん、2人とも遅れての参加になりますので、御了承いただきたいとします。阿部さん、石川さんにおかれましては、今回残念ながら御欠席ということでございます。この会議が終わった後、両名に対しては、事務局からきちんと説明をいただいて、またコメントをいただきたいと思っております。

本日は、復興庁での人事異動の直後ということでございますので、第3回の会合まで統括官として出席いただいた宇野事務次官に御出席をいただいております。一言どうでしょうか。

○宇野事務次官 今、御紹介がありましたように、7月5日付で復興庁事務次官を拝命いたしました。統括官時代には、この会議にも出席させていただき、御説明をさせていただいたところでございますが、また引き続きよろしく願いいたします。

○今村座長 どうぞよろしく願いいたします。

そして、今回も復興庁の担当の方に加えて関係省庁及び3県の担当者が傍聴しておりますので、御承知置きいただきたいとします。議事に入る前に、事務局から2点報告していただきたいとします。1点目は資料1でございまして、地震・津波被災地域等に係る復興施策の総括（案）でございまして、また、2点目は6月27日に行われました宮城県視察の報告になります。それでは、事務局の復興庁江原参事官から事務連絡も併せてお願いしたいと思います。

○江原参事官 ありがとうございます。それでは、ただいま座長からお話いただいた2点について、順次御報告させていただきたいとします。

まず1点目は、かなり厚手のものになりますけれども、本日の資料としてお配りしております資料1「地震・津波被災地域等に係る復興施策の総括（案）」の構成について御紹介させていただきたいと思っております。大きく4部構成になっておりまして、まず最初、おめくりいただいて1ページ目が「はじめに」でございます。もう一枚おめくりいただいて、2ページ目からが「第1章 これまでの主な取組と成果」ということで、第2回、第3回の会合の資料をまとめたものでございます。大きく飛んで190ページからが「第2章 評価と今後の方向性」でございます。これまでのワーキンググループ会合の中で構成員の方々から頂戴した御指摘等を反映したものを取りまとめたものでございます。190ページが表紙でございます。191ページが目次、本文が192ページからとなっております。今日は192ページ以下の内容について御確認と御議論を頂戴できればと考えております。

以上が1点目でございます。2点目は6月27日に行われました宮城県視察の結果につきまして、概要をお手元の資料2にまとめさせていただいておりますので御紹介したいと思います。

宮城県視察につきましては、1枚めくっていただいた行程の方も御覧いただければと思うのですが、最初、気仙沼市に参りまして、産業・生業、新ハズオン支援事業の関係で、株式会社阿部長商店にお伺いいたしました。また、次いで仙台市に参りまして、移転元地の活用関係でアクアイグニス仙台を訪問して、施設の整備、運営状況の視察や意見交換をしていただきました。その上で宮城県庁にお邪魔いたしまして、伊藤副知事から宮城県内の復興事業の現状について、また、心のケア関係で、みやぎ心のケアセンターからその活動の概要等につきまして御説明をいただき、意見交換をしていただいたところでございます。こちらの資料につきましては、3ページ以下、結果概要ということで、各視察先において復興に取り組んでおられる現場の方々から直接お伺いした御説明の内容やその際の意見交換の概要を記載しておりますので、本日の御議論の参考としていただければと存じます。

また、ここから事務的な御連絡になりますけれども、本日の審議で御発言いただく際には、恐縮ですが挙手をお願いいたします。会場で御出席の方は、お手元のマイクの通話ボタンを押してから御発言をいただければと存じます。また、オンラインで御出席の皆様には、マイクは御発言までミュートとしていただきまして、御発言の際にマイクをオンにいただければと存じます。御発言が終わりましたら再度マイクをミュートしていただくようお願いいたします。

本日の議事につきましては、これまでと同様、構成員の先生方のお名前を出席者として掲載しつつも、自由闊達に御議論いただくため、発言者の氏名を明記しない形で発言要旨を記載した概要を公開することとさせていただきたいと考えております。私からは以上でございます。

○今村座長 江原参事官、ありがとうございます。

今、2点報告をいただきました。早速議論を深めていきたいと思っております。本日の

議事は1点だけでございます。「地震・津波被災地域等における復興施策の総括（案）について」、御確認をいただきたいと思っております。今までこのワーキングで分野ごとに御議論いただいて、その結果について事務局の方でまとめていただいたところでございます。先ほど紹介いただいたとおり「評価と今後の方向性」ということでございますので、御説明のメインは190ページ以降になりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

今、戸塚さんも御参加いただきまして、ありがとうございます。白波瀬さんは若干まだ遅れるということでございますので、参加次第、コメント等をいただきたいと思ひます。それでは、資料1のうちの「第2章 評価と今後の方向性」について、御説明を山野統括官からお願いいたします。

議事「地震・津波被災地域等に係る復興施策の総括（案）」について、「第2期復興・創生期間までの復興施策の総括に関するワーキンググループ運営要領」第6項に基づき、議事要旨を記載。

議事要旨

復興庁山野統括官から資料1に基づき説明がなされた。構成員からの主な意見は、次のとおり。

なお、構成員からの資料1に対する修正意見の取扱いは、座長に一任された。

- ・ 総括（案）については、丁寧にまとめられており、内容も充実している。
- ・ 東日本大震災の後、非常に多くのインフラが整備され、それによって地域の防災の力も上がり、安心感に繋がったと思うが、今後はその維持管理が課題となる。今後の維持管理に向けた体制の強化に限界があると考えられることから、テクノロジーをうまく活用し、また、各自治体間で連携するなど、効率よく取り組む必要がある。このことを自治体の皆様にもよく理解していただく必要がある。
- ・ 住まいの復興と土地活用について、被災地と全国で土地の活用状況に大きな差はなく、なるところまで移転元地等の活用状況が進んでいるということだが、地域によって状況に違いがあるので、自治体に対する土地活用ハンズオン支援事業についての積極的な情報発信も含めた丁寧な対応が必要。

- ・ 心のケア、就学支援に関して、復興庁の体制の下、復興予算を入れ込んで大掛かりに、そして丁寧に伴走してきた。心のケア等は、第2期復興・創生期間の後も続くことが明らかであるので、今後は、激変緩和を図りながら一般施策に円滑に繋いでいくということが重要。ステークホルダー、関係者と連携して、丁寧に進めていただきたい。
- ・ こどもは、これから様々な経験をしながら人生を歩いていくものであり、こどもに対する支援は重要。こどもたちが支援からこぼれることのないよう、複層的な支援の在り方が求められる。
- ・ 今後、県に委ねる部分や一般施策を活用する部分についてスムーズに移行するためにも、情報の共有と発信、ノウハウの継承の在り方を考える必要がある。自分から情報を取りに行く、既存の制度を組み合わせる会社で採用することを自力でできる事業者もある一方で、そもそも情報収集の段階からサポートが必要な事業者もある。多くの自治体にも中間組織やNPOなどがあると考えられるので、このようなステークホルダーと連携して一般施策へのスムーズな移行に寄与できる体制をつくっていったらよいのではないか。
- ・ 震災伝承について、経験をどう伝えるかという意味では、「人から人」が一番。AIも発達しているが、人の生の声、リアルな体験・経験に基づく言葉、というのは大切。多数の協力者を巻き込みながら、また、被災地各地に残る伝承施設等のハード面と人と人とのつながりというソフト面をうまく組み合わせながら次の世代に伝えていっていただきたい。海外の方々を意識した、伝承施設での複数言語の表記などの工夫もできれば良いのではないかと。
- ・ 伝承の在り方そのものについても、関係省庁や県、民間等と連携して進めていただければ。
- ・ 東日本大震災での経験やノウハウを、「喉元過ぎれば」ということのないよう、よく検証し後世に伝えていくことや経験の発信に力を入れてほしい。

- ・ 総括（案）の「結びにかえて」における「前例のない手厚い支援」や「支援頼み」という表現について、前者は各所において使用されていて、また、その趣旨は理解できる。しかし、何をもって手厚いか、支援頼みというと依存的な様相が強調されるなど、その辺り誤解を与えないような表現とした方が良いのではないか。

（以上）